

## 研究開発・知的財産

三洋化成グループは、界面制御技術をはじめとしたさまざまなコア技術と、顧客価値・ニーズを機能に翻訳する開発スタイルを強みとし、これまでに多様な分野で活躍する機能性化学品を開発してきました。

### ニースーズ指向で多様なニーズに迅速に対応

ニースーズ指向とは、ニーズに対応して開発した技術に別の技術を融合させ、その融合技術をシーズにしてさらに新しい別のニーズに対応する製品を開発し、これを連鎖反応的に行っていくことで、オリジナリティの高い新ジャンルの製品群を開発していく当社独自の用語です。

近年はオープンイノベーションや他社とのアライアンスにも注力しており、エネルギー・エレクトロニクス分野やバイオ・メディカル分野での新規事業開発を進めています。

### モチベーションを高める施策

研究員一人ひとりがモチベーションを高く保ち、輝いていられるよう、さまざまなチャレンジ制度、表彰制度、技術融合の場、人材育成の機会を設けています。研究員はいつでも自身にあったチャレンジができ、周りからの応援も受けつつ成功体験を積みみます。

### 研究開発のフェーズごとに表彰制度を制定

研究開発における表彰制度は、開発フェーズごとに賞を設けています。研究段階では出願特許から選ばれるInventor of The Year（最優秀発明）、開発段階では研究開発の質を評価するThe Best R&D賞があり、また事業化後は、新製品の実績化による成果を評価する将来品実績化賞、および担当製品の利益向上成果を評価するThe Best RU賞があります。

#### ▶ 特許出願件数



■ 特許出願件数 (件)

本制度により、研究開発の各段階での努力と成果を適切に評価し、技術者・研究者のモチベーション向上と継続的なイノベーションを推進します。

### 知的財産情報の研究開発への活用

知的財産（以下、知財）活動としては、開発した技術の特許化することに加えて特許網を構築して技術の優位性を高め収益性を向上させる他、他社の知的財産権の侵害を回避させることなどを確実に遂行することで、独自性の高い製品の誕生や信頼を支え続けてきました。

上記の取り組みに加えて、知財情報や市場情報を総合的に分析し、IPランドスケープ\*に基づいた事業戦略を策定・実行する活動を推進しています。一例としては、当社グループの研究開発の特徴であるニースーズ指向とIPランドスケープとを組み合わせることで、既存・新規分野における保有技術の優位性の検証を行っています。これにより、当社技術の強みを活かせる新規用途探索および研究開発の確からしさの向上、開発スピードアップなどに取り組んでいます。また、他社の特許情報を解析し、注力分野や得意分野、他社が抱える技術課題を把握し、当社技術とのマッチングの可能性を探索するなど、新たな事業の創出提案につなげています。

今後、さらにIPランドスケープを通じて、知財の専門的知識を持つテクノリサーチ部が、研究開発部門だけでなく営業部門とも連携することにも取り組みます。顧客の技術課題やニーズに知財情報を掛け合わせて得られた情報を共有化し部門間を横断しての対話を進め、事業により独自性を持たせ、かつ収益性を高めることを目指します。

\* IPランドスケープ：「Intellectual Property（知的財産）」と「Landscape（景観、見通し）」を組み合わせた造語

### 階層別の特許教育体系

2024年度は、知財リテラシー・マインド向上と実践力強化を目指して、階層別の特許教育を行いました。経験の少ない研究員から実務担当の研究員まで、段階的な研修を実施し出願目標を設定し知財活動に取り組んだ結果、2024年度の出願件数は324件となり、減少傾向に歯止めがかかりました。